

2021 年度「卒業生アンケート」の結果と分析

2021 年度の「卒業生に対するアンケート調査」は、卒業生の勤務の状況を把握し、卒業生支援及び在学生の進路支援等教育活動、教育の成果と効果の改善に反映させていくことを目的に実施した。2021 年 12 月に、卒業後 3 年～7 年の卒業生（2012 年度入学生～2016 年度入学生）600 件を対象に調査項目記載用紙および回答用 QR コードを送付した。46 名が回答し、回収率は 8%であった。

尚、卒業生の勤務の状況の質問項目については、他の調査と比較できるよう、厚生労働省 雇用機会均等・児童家庭局保育課保育係が実施主体の「保育士再就職支援に関する調査（2011 年 10 月実施）」を参考にした。

また、教育の成果については、和泉短期大学 4 つのカリキュラムポリシーをもとにした和泉の 10 の力の育成についての質問項目とした。

【結果と分析】

1. 調査対象者について

年代は、97.8%が 20 代女性であった。居住地は 80.4%が神奈川在住であった。

卒業年度に関しては、2018 年度卒業生 45.7%、2017 年度卒業生 21.7%、2016 年度卒業生 8.7%、2015 年度卒業生は 10.9%、2014 年度生は 13%であった。

2. 卒業生の勤務の状況について

（1）勤務先の種別と勤務状況

卒業後の勤務先の種別としては、認定こども園 34.8%、保育所 30.4%、幼稚園 26.1%、保育所以外の児童福祉施設 4.3%、障害者支援施設 2.2%、認可外保育施設 2.2%であった。そのうち、73.9%が現在も同じ勤務先で勤めており、23.9%が同じ勤務先で勤めていなかった。

（2）離職状況について

卒業後の就職先と異なる職場で働いていると回答したもののうち、現在働いている施設種別としては、保育所 36.4%、一般企業 36.4%、障害者向けグループホームが 9.1%であった。63.6%が常勤で働き、契約・パートが共に 9.2%であった。離職理由では、職場における業務負担が 63.6%、雇用条件、責任の重さ・事故への不安、人間関係 27.3%であった。また、5 年未満の離職が 45.5%、3 年未満、2 年未満、1 年未満の離職が共に 18.2%であった。

また、調査時現在働いていないと回答が 18.2%であった。働いていないと回答したものの復職の意向については、72.7%が復職の意思があった。62.5%保育所を希望、75%が常勤を希望していた。復職しない理由としては求職しているが条件に合う求人がない 63.6%、就職に不安がある 36.4%であった。不安要素としては、家庭との両立の不安が 45.5%、自身の健康・体力が 27.3%、能力、結婚・出産、最新の知識・技能が共に 9.1%であった。また、必要なサポートとしては、業界の情報が 54.5%、就職の情報が 18.2%、個別相談の機関、具体的な指導が 9.1%であった。

【分析】

以上の結果から、卒業時は、89%が保育所、認定こども園、幼稚園に就職し、73.9%が現在も同じ勤務先で勤めており、継続がされていることが明らかになった。また、同じ勤務先で勤めていない 23.9%の回答のうち、一般企業への就職 36.4%、障害者向けグループホーム？が 9.1%となっており、他の職種や保育所以外の児童福祉施設へ変更していることが明らかになった。

離職理由では、職場における業務負担が 63.6%、雇用条件、責任の重さ・事故への不安、人間関係 27.3%であった。このことから、就職前からの情報の提供とともに、本調査結果の就職先との共有をしながら離職改善に努めていく必要があると考えられる。

2. 和泉短期大学 4 つのカリキュラムポリシーをもとにした和泉の 10 の力の育成について

「1. 礼節を重んじ良識ある行動ができる」に関しては、「十分身についている」「ある程度身についている」を合わせると 80.4%(前年度 92.3%)

「2. 人権の尊重」に関しては、2 つの項目を設けた。一つは、「和泉短期大学は、『キリスト教信仰に基づく教育と人格形成』という建学の精神を基本としています。今、あなたは、高い倫理観をもっていませんか？」という項目である。この項目が「十分身についている」「ある程度身についている」を合わせると 45.6%(前年度 48.1%)もう一つは、「今、あなたは、子どもや利用者の「人権を尊重」し、より豊か

な人生をささえていますか？」という項目である。この項目が「十分身についている」「ある程度身についている」を合わせると 82.6%(前年度 94.2%)

「3. 多様性の尊重」に関しては、「十分身についている」「ある程度身についている」を合わせると 80.5%(前年度 84.6%)

「4. 社会貢献」に関しては、「十分身についている」「ある程度身についている」を合わせると 81.5%(前年度 84.6%)

「5. 基礎学力」に関しては、2 つの項目を設けた。

一つは、「今、あなたは、文章表現力、読解力、数的推理の 3 つを十分に身につけていますか？」という項目である。この項目が「十分身についている」「ある程度身についている」を合わせると 67.4%(前年度 84.6%)

もう一つは、「今、あなたは、健康・スケジュール管理に努めていますか？」という項目である。この項目が「十分身についている」「ある程度身についている」を合わせると 80.5%(前年度 92.3%)

「6. 保育・福祉の知識と技能」に関しては、「十分身についている」「ある程度身についている」を合わせると 82.6%(前年度 84.6%)

「7. コミュニケーション力」に関しては、「十分身についている」「ある程度身についている」を合わせると 82.6%(前年度 90.4%)

「8. 自ら考える力」に関しては、2 つの項目を設けた。

一つは、「今、あなたは、自己の課題に対し、身につけた知識や技能をもとに、情報収集や判断・分析ができていますか？」という項目である。この項目が「十分身についている」「ある程度身についている」を合わせると 76.1%(前年度 86.5%)

もう一つは「今、あなたは、多角的な視点から主体的に考えることができているか？」という項目である。この項目が「十分身についている」「ある程度身についている」を合わせると 76.1%(前年度 80.7%)

「9. 自ら行動する力」に関しては、「十分身についている」「ある程度身についている」を合わせると 80.4%(前年度 88.5%)

「10. 実践する力」に関しては、2 つの項目を設けた。

一つは、「今、あなたは、和泉短期大学での学び等これまでの学びを十分に生かし、保育・福祉の実践現場のニーズに合わせ保育内容を実践していますか？」という項目である。この項目が「十分身についている」「ある程度身についている」を合わせると 71.7%(前年度 86.5%)

もう一つは、「今、あなたは、和泉短期大学での学び等これまでの学びを十分に生かし、保育・福祉の実践現場のニーズに合わせ保育内容を実践して、その振り返りができていますか？」である。という項目である。この項目が「十分身についている」「ある程度身についている」を合わせると 71.7%(前年度 76.9%)

【分析】

以上の結果から、和泉の 10 の力のうち、「礼節を重んじ良識ある行動ができる」、「人権の尊重（子どもや利用者の『人権を尊重』）」、「多様性の尊重」、「社会貢献」、「基礎学力」、「保育・福祉の知識と技能」、「コミュニケーション力」、「自ら考える力」、「自ら行動する力」に関しては、「十分身についている」「ある程度身についている」と回答している卒業生が 8 割と高い値を示している。

「人権の尊重」に関する設問のうち「『キリスト教信仰に基づく教育と人格形成』という建学の精神に基づいた高い倫理観」の質問については「十分身についている」「ある程度身についている」と回答している卒業生が 45.6%と最も低くなっている。建学の精神である『キリスト教信仰に基づく教育と人格形成』についての理解が深められるような取り組みが必要である。また、アンケートの設問の文章についても、わかりやすい表現にする等検討も必要と考えられる。

昨年度結果との比較では、全ての項目においてポイントが低下している（3～17 ポイント）。特に、大きく低下している項目は、「5. 基礎学力」の「文章表現力、読解力、数的推理（-17 ポイント）」、「10. 実践する力」の「保育内容の実践（-15 ポイント）」であった。在学中から、「学生自身が振り返る和泉の 10 の力（学習成果の記録等）」や、「外部によるアセスメント」等活用し、CDC、WILL といったセンターと連携を図り、「5. 基礎学力」「6. 実践する力」の向上を目指していくことが重要であると考えられる。また、2020 年度生より、学習成果の記録を活用しながら、建学の精神についての学びを深める取り組みを実施している。2020 年度生が卒業した際に、これまでの取り組みが結果に反映される可能性もある為、卒業時アンケートからコーホート分析を行い世代別の分析も必要があると考える。

今後の課題として、アンケートの回収率が、昨年に引き続き、低いため回収率を高める対策を講じていく必要がある。